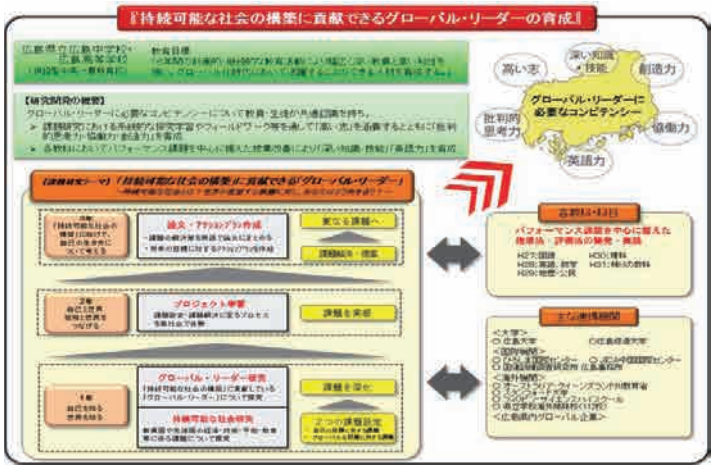
広島県立広島中学校・広島高等学校

持続可能な社会の構築に貢献できる グローバル・リーダーの育成

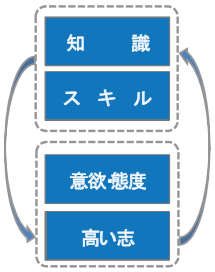
【構想の概要】

研究開発の目的は，すべての人が“善く生きる”ことのできる持続可能な社会の構築に貢献したいという「高い志」を持ち，その実現のために，「広島」への深い理解・愛着を持ちながら，国内外の異なる文化的背景を持つ人々と協働して，新たな価値を創造できるグローバル・リーダーを育成することである。そのために，カリキュラム・指導法・評価法の開発，及び環境整備を行い，グローバル・リーダーに必要なコンピテンシーの育成に向けて，「課題研究」と各教科の「パフォーマンス課題」を関連させ，生徒の「汎用的能力」を育成する。また，パフォーマンス課題を用いた授業により「深い知識・技能」「英語力」を育成する。さらに「持続可能な社会の構築」をテーマに，多様な他者とのディスカッション，フィールドワーク等により，知識と実社会を結び付けながら探究するという課題研究を通して，「高い志」をはじめとするコンピテンシーを育成する。

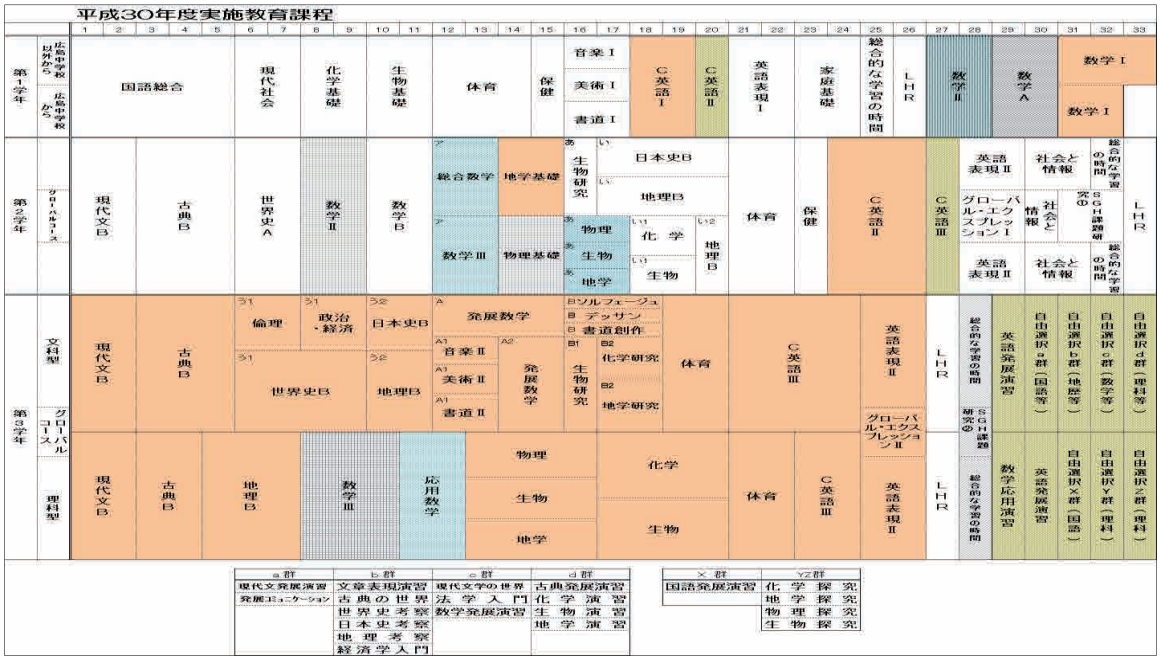


【取組の基本的な考え方】
・コンピテンシーへの共通認識
↓
「課題研究」（汎用的能力）と「パフォーマンス評価」（知識・技能）を連携

コンピテンシー育成の好循環



ＳＧＨ対象生徒
１年生 240名（学年全体240名）
２年生　80名（学年全体240名）
３年生　80名（学年全体240名）



教育課程表や時間割上の工夫

本校では，高校２年次・３年次において，２クラス 80 名からなるグローバル・コースを設置し，将来グローバルリーダーとして活躍できる人材の育成を目指している。本コースでは「グローバル・エクスプレッションⅠ・Ⅱ」やグローバル課題等について研究する「ＳＧＨ課題研究①・②」を設置している。また，教科以外の活動では，ハワイ姉妹校留学，オーストラリア，フィリピン等で短期海外研修を行い，これらの学習をとおして，グローバル化時代に対応した力を育成することにしている。また，本校におけるＳＧＨ事業の方向性を決定する研究開発組織は，課題研究推進部が統括する４つのチームで編成され，毎週１回，週時程に位置付けた委員会において，協議を行い，研究の推進を担っている。

学校設定教科・科目

平成 28 年度から，高校２年次・３年次のグローバル・コースで，「英語表現Ⅱ」に代えてそれぞれ「グローバル・エクスプレッションⅠ・Ⅱ」を実施している。この科目は，実践的なコミュニケーション能力を育成することで，海外や留学生とのワークショップを機能化させ，ＳＧＨ課題研究①・②を深めることを目標としており，学習内容の深化を図るため，他教科での学習内容と関連付けながら進めている。なお，本校では生徒が個々に英語学習に取り組む動機づけとして，また，英語力を測る指標の一つとして，実用英語技能検定（英検）を受検することを推奨している。特に，グローバル・コースでは，高校２年生までに全員が英検２級を取得することを目標とし，さらに準１級への挑戦を薦めている。

実用英語技能検定　取得者数一覧

平成28年度当初の取得数

	1	準1	2	準2	3	4	5	取得者数
高1	－	－	16	77	138	3	2	236
高2	－	3	77	111	35	3	1	230
高3	－	8	95	68	59	1	－	231
計	0	11	188	256	232	7	3	697

平成29年度当初の取得数

	1	準1	2	準2	3	4	5	取得者数
高1	－	－	25	97	107	2	－	231
高2	－	2	101	81	52	2	1	239
高3	－	19	109	71	25	2		226
計	0	21	235	249	184	6	1	696

平成28年度第1回実用技能英語技能検定終了後

	1	準1	2	準2	3	4	5	取得者数
高1	－	1	38	109	85	2	2	237
高2	－	3	105	92	28	2	1	231
高3	－	10	99	65	56	1	－	231
計	0	14	242	266	169	5	3	699

平成29年度第1回実用技能英語技能検定終了後

	1	準1	2	準2	3	4	5	取得者数
高1	－	1	40	110	81	－	－	232
高2	－	2	116	74	43	2	1	238
高3	－	29	114	57	24	2	－	226
計	0	32	270	241	148	4	1	696

平成28年度第2回実用技能英語技能検定終了後

	1	準1	2	準2	3	4	5	取得者数
高1	－	1	70	104	60	2	2	239
高2	－	6	107	88	28	2	1	232
高3	－	11	100	64	56	1	－	232
計	0	18	277	256	144	5	3	703

平成29年度第2回実用技能英語技能検定終了後

	1	準1	2	準2	3	4	5	取得者数
高1	－	2	84	93	58	－	－	237
高2	－	6	135	56	39	2	1	239
高3	－	31	112	57	24	2	－	226
計	0	39	331	206	121	4	1	702

平成28年度第3回実用技能英語技能検定終了後

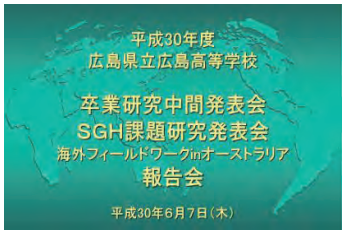
	1	準1	2	準2	3	4	5	取得者数
高1	－	2	99	82	52	2	1	238
高2	－	19	110	72	25	2	1	229
高3	－	11	100	64	55	1	－	231
計	0	32	309	218	132	5	2	698

平成29年度第3回実用技能英語技能検定終了後

	1	準1	2	準2	3	4	5	取得者数
高1	－	4	109	82	43	－	－	238
高2	－	16	147	40	34	2	－	239
高3	－	31	112	57	24	2	－	226
計	0	51	368	179	101	4	0	703

SGH 課題研究

本校の課題研究は，高校１年次で「グローバル・リーダー研究」，「持続可能な社会研究」，高校２年次で「プロジェクト学習」，高校３年次で「論文・アクションプラン」と系統的なつながりをもっており，高校３年次に作成する卒業論文はＳＧＨ課題研究の集大成である。この取組により，生徒は自らの学びを客観的に捉え，相対的，批判的な視点を身に付けるとともに，自分の考えを理論的に説明する力を向上させている。また，昨年度からは，生徒に課題研究の要旨をまとめたパワーポイントを作成させるとともに，データベース化にも取り組んでいる。このことにより，生徒自身の課題研究に一貫性や継続性を持たせることができると同時に，学校全体としても「知の蓄積」を進めることができる。



発表者	課題研究テーマ
1	特別活動（TOKKATSU）における合意形成と集団志向に関する探索的研究 ～フィンランドでの留学経験を踏まえた，協働性を育む「沈黙のマネジメントモデル」の開発～
2	回転運動に着目した走り幅跳びにおける踏切前２歩”長－短”の動作の重要性の証明
3	無常観を翻訳する　～日本独自の感性はグローバルになりえるのか～
4	動画解析による卓球のスイングにおける手首・膝の軌跡の計測 ～未経験者と経験者の比較を通して～
5	鏡による住宅用太陽光発電システムの効率化
6	広島県の高等学校における平和教育の在り方について ～アクティブラーニングを使用した授業の提案～
7	「腕組み」が記憶力にもたらすプラセボ効果の検証
8	Research on Colored Pictograms and their Interpretation

さらに，学校全体としても，課題研究と各教科の学びを結び付けることによりコンピテンシーベースの学びが実現できていると考えている。このことは，平成 29 年度 SGH 甲子園における最優賞受賞などのコンクール等での多数の受賞実績や東京大学の推薦入試合格（平成 27 年度入試１名，平成 28 年度入試２名，平成 30 年度入試２名）などに現れている。

今後，課題研究を本校の幹としてさらに内容を充実させると同時に，社会性の充実にも取り組んでいく。そのために，ＳＧＨの取組と各教科等との関連を可視化したカリキュラム・マップにより統合された学校全体の教育活動を有機的に結び付け，学校全体で取組を進めていく。